

▶ケーブルテレビ

連載 新資格「CATV技術者資格」最新情報②

CATV技術者資格「エキスパート資格」の 受講・受験申し込みが好調に推移

～有線テレビジョン放送技術者からの移行申し込みも順調～

齋藤六郎

(社)日本CATV技術協会
事業部(技術者育成)部長

(社)日本CATV技術協会(理事長:安藤 彰)は2011年11月1日から、新資格制度のスタートに合わせてエキスパート資格の受講・受験と有線テレビジョン放送技術者資格からの移行申し込みの受付を開始しました。

新しい資格制度の特長は、ケーブルテレビの仕事に直結するエキスパート資格が取得できること、4部門のエキスパート資格を計画的に取得していくことで、上位の第1級CATV技術者やCATV総合監理技術者の資格を得られることです。

2011年は東日本大震災による一部地域を除いて地デジへの移行が終了し、放送の完全デジタル化が達成された年となりました。また、近年多くのケーブルテレビ局においてはケーブルインターネット等のサービスが導入されており、これらのサービスをサポートする技術の習得は、CATV技術者にとっては必須となっております。

当協会は、これまで有線テレビジョン放送技術者資格制度を運用してきましたが、この制度での資格者が新しい資格制度に移行していただくため種々の移行措置を用意し、申し込みの手続きをさせていただいています。その中でも、とりわ

け法規講習会はシステムの安全・信頼性、品質に関わる項目及び各種の届出業務に関して集中的に講習を行い、理解度を図るレポート提出をしていただくことなどにより、一定条件を満たす方は新資格制度の第1級CATV技術者に移行できる施策として好評を得ております。申し込みの状況は表の通りとなっております(表1)。

今回の新資格制度発足に伴い、講習・試験に用いるテキストについても、全面的に見直しを行いました。特に新しい分野として編集した『CATVエキスパート技術者テキスト(ブロードバンド)』については、ケーブルインターネットの基礎技術から最新のアプリケーションまで習得できる構成となっております。(目次構成例を表2に示します)。

2012年1月には当協会の支部の所在する都市において講習会を行い、2月12日には試験を実施します。詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.catv.or.jp>

お問い合わせは以下のところです。

社団法人 日本CATV技術協会
資格制度専用電話: 03-5155-6282 (平日9:30~17:00)

『CATVエキスパート技術者テキスト』の表紙



表1●申し込み状況 (2011年12月12日時点)

区 分	申込数	備 考	
新規受講・受験申込数	3,927	科目合計を示す(申込人数×1人当たり申込科目数)	
有テレ1級からの移行申込者数	5,647		
内訳	・法規講習会申込数	2,599	法規講習会のみ申込み+3科目レポート申込み
	・課題レポート提出申込数	3,048	課題レポートのみ申込者

表2●『CATVエキスパート技術者テキスト(ブロードバンド)』の目次構成

第1章 ケーブルテレビにおける通信方式	6.5 VoIPシステム概観
第2章 ネットワークの基礎	6.6 VoIPの通話品質
2.1 ネットワークの基本技術	6.7 VoIPの技術的課題
2.2 ブロードバンドネットワークアクセス技術	6.8 E-modelとR値
2.3 データリンクプロトコル技術	6.9 ENUM検討状況
2.4 サーバ群	第7章 IPTV
2.5 ネットワークプロトコル技術	7.1 IPTVの定義とサービス
2.6 トランスポートプロトコル技術	7.2 IPTV技術
2.7 アプリケーションプロトコル技術	7.3 コンテンツナビゲーションとサービス発見
2.8 NGN技術	7.4 宣言型/手続き型アプリケーション
第3章 FTTH型ケーブルテレビシステム	7.5 IPTVの国際標準化
3.1 使用光波長	第8章 レジデンシャルゲートウェイ
3.2 光ネットワークの接続形態	8.1 レジデンシャルゲートウェイの定義
3.3 PONシステム	8.2 RGWの具体的なイメージ
3.4 RFoGシステムの概要	8.3 RGWと外部ネットワーク
第4章 DOCSIS	8.4 NGNとRGW
4.1 ケーブルインターネット標準化のねらい	8.5 RGWとホームネットワーク
4.2 DOCSISの全体仕様	8.6 UPnPとDLNA
4.3 DOCSISシステム	8.7 遠隔管理
4.4 MACシステム	8.9 国際標準化
4.5 DOCSISのPHY仕様解説	第9章 宅内AVネットワーク
4.6 セキュリティ	9.1 宅内AVネットワーク概要
第5章 高信頼性システム	9.2 DLNAを用いたユースケースシナリオ
5.1 高信頼性システムの必要性	9.3 接続環境・運用
5.2 ネットワークのシステム設計	9.4 動向
5.3 システムの冗長化	第10章 国際標準化
5.4 システム監視	10.1 ケーブル事業と国際標準化
第6章 VoIP	10.2 国際電気通信連合 (ITU)
6.1 システムアーキテクチャ	10.3 国際電気通信会議 (IEC)
6.2 シグナリングゲートウェイ	10.4 注目すべき標準化団体
6.3 メディアゲートウェイ	10.5 日本の貢献
6.4 VoIPプロトコル	付録 ネットワークに関する用語